

米国大統領選の仕組み ～ 第3の候補

- 米国では民主党と共和党による2大政党制が続いている。
- 一方で、今回は2大政党以外から出馬した候補者のケネディ氏に注目が集まっている。

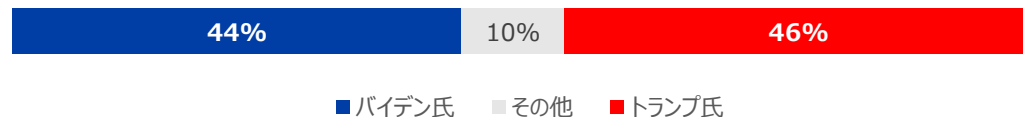
2大政党以外から立候補中の主な候補者

ロバート・ケネディ・ジュニア (70)	ジル・スタイン (73)	コーネル・ウェスト (70)
		
2023年4月に民主党から立候補後、同年10月に無党派に鞍替え。 - ロバート・ケネディ元司法長官の息子で、ケネディ第35代大統領の甥。 - 弁護士として環境保護のための訴訟案件に従事。一方、新型コロナ用ワクチンについては反対活動を展開。	2023年11月、緑の党から立候補。2012年、2016年にも同党から出馬。 - ハーバード大学医学校卒で、環境・健康問題に関する普及啓発活動に従事。 2002年から政治活動を開始し、マサチューセッツ州知事選にも出馬した経歴を持つ。	2023年6月に立候補表明。人民党からの立候補を表明後、緑の党への鞍替えを模索したが、無党派からの出馬とした。 - 哲学者としてハーバード大学やプリンストン大学で教授を務めた。 - 急進左派的な政策を掲げる。

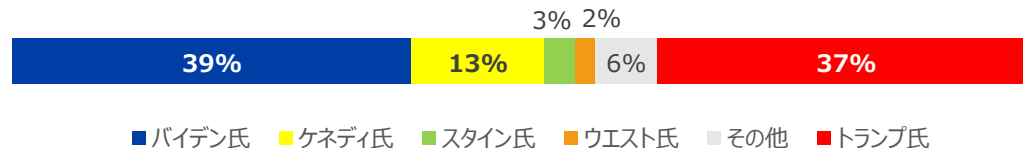
(出所) 各候補者キャンペーンサイトなどを基に作成

- 米NBCニュースの世論調査(注)では、バイデン氏とトランプ氏のみが候補者の場合と、第3の候補者も含めた場合を比べると、ケネディ氏の存在がバイデン氏よりもトランプ氏に打撃となる結果が出た。
- 他方で、激戦州ごとの世論調査では逆の結果が出ているものもあり、ケネディ氏の存在が最終的に、2大政党候補にどう影響するかは予断を許さない状況。
- 1992年の選挙では、無党派のロス・ペロー氏が得票全体の18.9%を獲得した実績あり。結果は民主党ビル・クリントン氏(43%)が現職大統領だった共和党ジョージ・ブッシュ氏(37.4%)を抑えて勝利。

バイデン氏とトランプ氏のみが候補者の場合、どちらに投票するか



第3勢力の候補者も含めた場合、誰に投票するか



(注) 4月12～16日に1,000人の登録有権者を対象に実施